

北海道浮魚ニュース

平成 16(2004)年度 21 号 (通巻 No.185)

2004 年 10 月 8 日

北海道立水産試験場

道東太平洋サンマ南下期調査結果

分布は少ない 魚体は特大・大型魚が主体

北辰丸(釧路水産試験場試験調査船)で行ったサンマ南下期調査の結果をお知らせします。今回の調査は、道東太平洋海域へのサンマの南下状況を把握することを目的に実施しました。

調査期間：2004 年 9 月 28 日～10 月 7 日

調査海域と調査点(図1)：道東太平洋(39°42'N～42°30'N, 143°00'E～147°00'E)の13調査点(漁獲調査は7点)

調査方法：9種類の目合(22,25,29,37,48,55,63,72,82mm)の流し網を用いた漁獲試験

1. 表面水温(表1)

各調査点の表面水温は13.3～20.2の範囲でした。また、漁獲調査点の表面水温は13.3～16.8の範囲にあり、サンマの分布に好適な水温となっていました。

2. 漁獲尾数とCPUE(図1、表1、表2)

流し網調査の結果、サンマの総漁獲尾数は168尾でした。また、CPUE*(流し網1反あたりの漁獲尾数)は2.0尾でした。これを過去の同調査と比較すると、漁獲尾数、CPUEともに2000年以降では最も少ない結果となりました。

調査点毎にみると、水温が比較的低い(13台)調査点で漁獲が多く、比較的高い(16以上)調査点では皆無もしくは数尾と少なくなっていました。また、東側に位置するSt.3,5,7で比較的多く漁獲されました。

夜間に各漁獲調査点でサンマの目視を行った結果、St.3,5,7では数百から数千尾程の小群を発見しましたが、他の調査点では皆無もしくは数尾しか発見できませんでした。この結果を他の年と量的に比較するのは難しいのですが、今年は分布量が少ないと思われました。

3. 体長組成(図2)

流し網で漁獲されたサンマの体長範囲は、21～34cm台でした。

銘柄別では、31cmにモードがある特大・大型魚が全漁獲尾数の約80%を占め、中型魚が約17%、小型魚・ジャミが約3%でした。

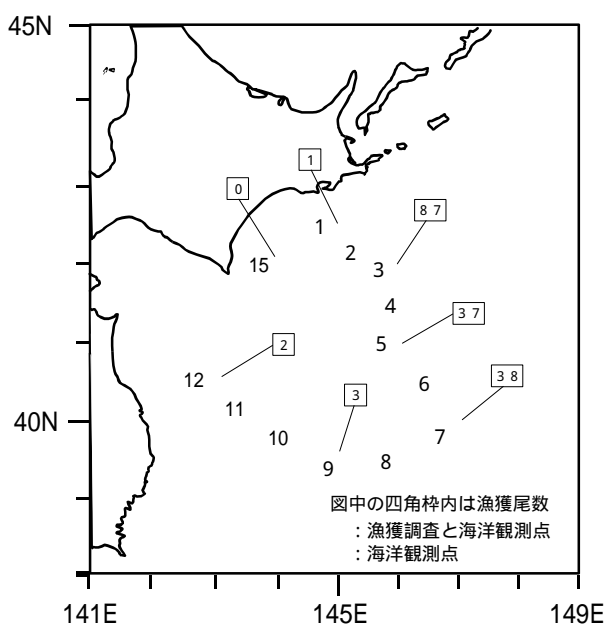


図1 2004年サンマ北上期調査の調査点図とサンマ漁獲尾数

*目合29,37,48mmの漁獲尾数から算出。1反は30間切りで換算。

表1 2004年サンマ南下期調査結果概要

St.	調査日 (揚網日)	水温(°C)			サンマ漁獲尾数						
		0m	50m	100m	目合22mm	25mm	29mm	37mm	48mm	55mm	合計
1	9月29日	15.1	5.0	2.4	0	0	0	1	0	0	1
2	9月29日	17.3	10.5	8.2	-	-	-	-	-	-	-
3	10月2日	13.8	5.1	2.2	0	1	8	58	20	0	87
4	10月2日	16.3	3.3	1.9	-	-	-	-	-	-	-
5	10月3日	13.3	2.8	1.8	0	0	6	28	3	0	37
6	10月3日	16.5	3.5	2.0	-	-	-	-	-	-	-
7	10月4日	15.4	3.2	1.9	0	0	1	36	1	0	38
8	10月4日	20.2	13.3	9.9	-	-	-	-	-	-	-
9	10月5日	16.6	5.7	2.9	0	0	0	3	0	0	3
10	10月5日	16.6	13.2	7.0	-	-	-	-	-	-	-
11	10月5日	17.7	8.6	6.2	-	-	-	-	-	-	-
12	10月6日	16.8	7.7	4.2	0	0	0	2	0	0	2
15	9月30日	16.1	5.2	2.2	0	0	0	0	0	0	0
合計					0	1	15	128	24	0	168

目合22,25mm各1反(30間切り換算)、29,37,48mm各4反(30間切り換算)、55mm2反(30間切り換算)

表2 サンマ南下期調査における漁獲尾数とC P U Eの経年変化

	2000年	2001年	2002年	2003年*	2004年
漁獲尾数(尾)	608	8124	2168	2425	168
CPUE(尾/反)	7.2	112.2	40.8	185.3	2.0
漁獲調査点数	7	6	4	1	7

*2003年は荒天、地震等により、漁獲調査点は1点のみであったため参考値。

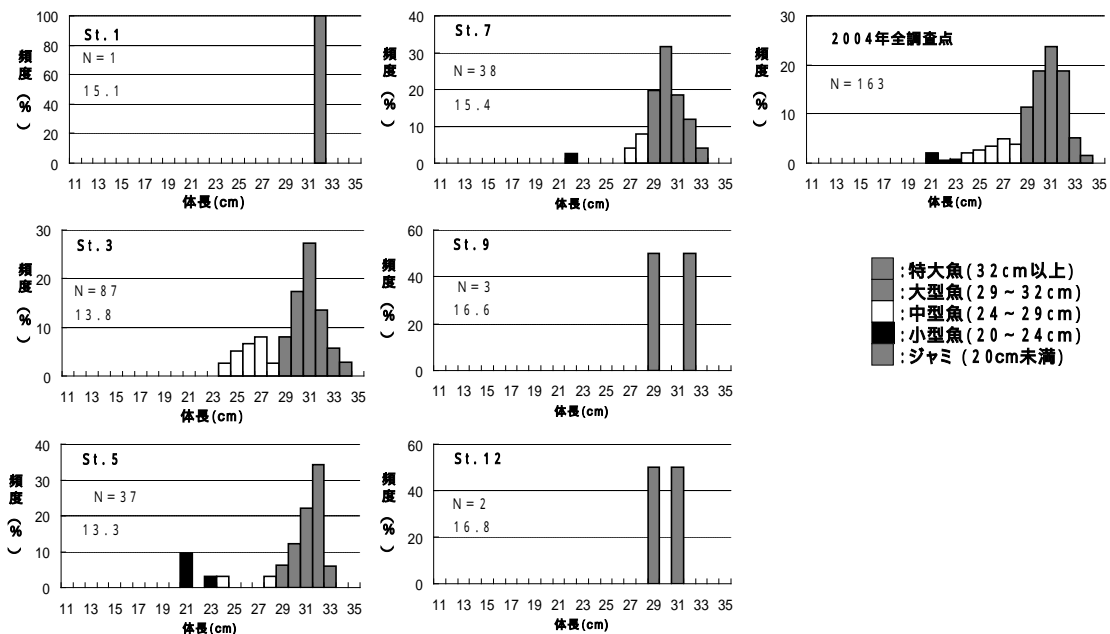


図2 2004年サンマ南下期調査におけるサンマの体長組成(Nは漁獲尾数、温度は表面水温)

4.まとめ

この時期のサンマは、親潮水(冷水)の中を北方四島周辺から北海道・本州方面に向けて南下します。今回の漁獲調査点は、例年好漁場が形成される親潮水と北上暖水の潮境付近に配置されており、またその表面水温はサンマの分布に好適でした。それにもかかわらず、調査による漁獲尾数は、2000年以降の同調査の中で最も少ない結果となりました。このことから、現時点では道東太平洋海域を通過して南下するサンマの資源量は、2000年以降の中では少ないと考えられます。しかし、10月上旬には漁船が道東太平洋沿岸でこれまでよりも濃いサンマの群を見ていることから、今後來遊量が増加することも考えられます。

(文責: 釧路水産試験場 資源管理部、TEL: 0154-23-6222, FAX: 0154-23-6225)